



シュンデンタルタイムズ 12

2020

今月の特集

年始の目標を実現できました！

早いもので、今年も残すところあと1ヶ月となりました。

私、鎌田が今年目標として掲げたのは「**前歯治療の引き出しを増やす**」ことでした。

今まで前歯治療で可能だったのは、コンポジットレジン修復、ブリッジ、入れ歯、クラウンの4つ。



そこにプラスαとして、今年目標である**引き出しの追加を実現！**

ポーセレンラミネートベニア療法とインプラント療法がラインナップとして加わり、**現存する前歯治療の全てを当院で網羅**することが出来るようになりました！

ラミネートベニアとは？

ラミネートベニアとは、前歯の表面をごくわずかに削り、歯の色をした薄いセラミックを貼付け、問題を改善する方法です。前歯の変色や隙間がある場合、または統一感のないコンポジットレジン修復のリフォームに有効な治療法です。このような場合、以前までは前歯の全周を削って、その上にすっぽりかぶせる“クラウン”を入れるのが普通でした。

ところが、デメリットとして、クラウンをかぶせるためには**健全で無傷の前歯を大きく削る**必要がありました。ラミネートベニアは表面を0.3~0.5mmだけ削れば良いので、**歯の神経に影響がない**のが大きな特徴です。

ラミネートベニアの歴史

ラミネートベニアの歴史は意外と古く、1920年代にハリウッド映画スターが撮影用に用いた取り外し式のものが最初とされています。

当時は、使用する材料がもろく割れやすいということで、あくまで映画の撮影用に限られていました。

そこから材料が進化を遂げ、今から20年ぐらい前に、歯の色をしたプラスチック（レジン）を表面に貼り付けることが出来るようになりました。

裏面に続く

しかしプラスチックは柔らかく、水を吸う性質があるため、変色したり表面がすり減ることが問題でした。そこでプラスチックに代わるものとして、セラミック(ポーセレン)を用いたポーセレンラミネートベニアが登場。

ポーセレンラミネートベニアは天然の歯に近い色や光沢をもっており、色が変わったり、表面がすり減ったりすることはほとんどありません。

材料が丈夫になっただけではなく、貼り付ける接着剤も良くなったので、割れたり、はがれたりすることがごく稀となり、今ではスタンダードな症例として使用できるレベルに到達しており、主に上顎の前歯の治療で使用されることが多いです。

「歯が変色している」「位置や形が不自然」
このような悩みがありましたら、お気軽にご相談ください。



因みに! 私、鎌田の前歯も「ポーセレンラミネートベニア」です!(笑)



シュン デンタルクリニック

〒041-0802 北海道函館市石川町 461-38 TEL 0138-47-3737

<http://shundc.jp/>